

# 長野県木曽谷における 高齢級人工林ヒノキのブランド化

— 高<sup>マルコウ</sup> 国<sup>マルコク</sup> 木曽ひのき —



高<sup>国</sup>の丸太を見る業者

長野県木曽谷(図1)は古くから国内有数の木材生産地であり、木曽谷の森林資源は、地域の基幹産業である木材産業の基盤として位置づけられています。また、伝統的な木造建築物に使われる貴重な材も産出することから全国の社寺建築関係者などからの期待も大きいものがあります。

木曽谷の森林資源としては、天然ヒノキが知られていますが、木曽谷は古くから造林が行われている地域でもあり、近年は林齢(植栽されてからの年数)が80年生を超える高齢級人工林ヒノキの資源も充実しつつあります。

木曽谷の人工林ヒノキは、厳しい自然環境で生育していることなどから他の地域のものとは比べ年輪幅が密で木の品質が良いなどの特色がありますが、これまでは市場で、他の地域のヒノキとの区別はされていませんでした。このような背景があり、中部森林管理局では、木曽谷の国有林で生産された高齢級の人工林ヒノキの認知度や評価を高めていくため、今年度から「高<sup>国</sup>木曽ひのき(呼称:マルコウ・マルコク・キンヒノキ)(※1)と称してこれらのブランド化に取り組んでいますので、その内容を紹介します。

※1 高<sup>国</sup>は高齢級、国<sup>国</sup>は国有林を略したものの

## ■木曽谷の人工林ヒノキ

木曽谷(木曽森林管理署及び同署南木曽支署管内)には、国有林が約9万haあり、このうち人工林ヒノキは約2万5千haを占めています。木曽谷の人工林ヒノキは戦前から造林されているものも多く、80年生以上である高齢級の人工林ヒノキは面積で約7千ha、立木の蓄積(※2)で約236万m<sup>3</sup>となっています。最高齢は127年生で、現在まで継続的に造林が行われていることから、79年生以下の人工林ヒノキも順次生育しており、材の持続的な供給が可能となっています(図2)。

※2 森林に生えている樹木の幹の体積の総和

## ■高<sup>国</sup>木曽ひのき

ブランド化を図ることにした丸太は、木曽森林管理署及び同署南木曽支署の国有林から生産される林齢80年生以上の高齢級の人工林ヒノキとし、林齢と産出地の両方を表現できるように「高<sup>国</sup>木曽ひのき」と称して供給することになりました。また、丸太の長さや太さが一定以上であること、曲がりがないこと、多節ではないことという基準に合致した「高<sup>国</sup>木曽ひのき」については、特に品質に優れたものとして、林齢により3種類(80年生以上、100年生以上、120年生以上)に区分した上で、一本一本に極印による表示

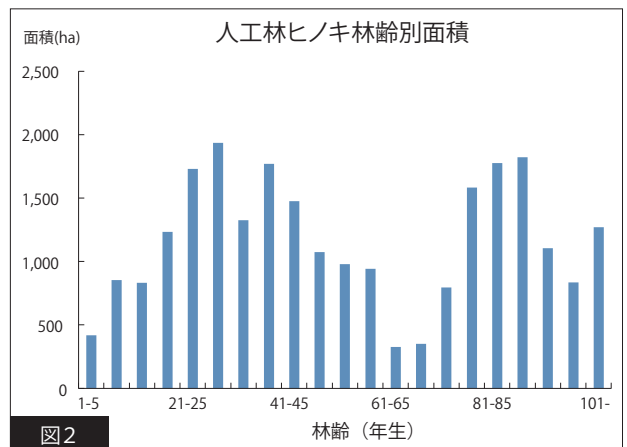


図2

人工林ヒノキ林齢別面積

1) を行うこととしました(資料1、写真1)。



林齢が120年生以上のものの標示 林齢が100年生以上のものの標示 林齢が80年生以上のものの標示

資料1 使用する極印



写真1

丸太に押印した極印

### 取組の周知

取組の周知に関しては、まず、初めにチラシを作成して関係業界等に配布するとともに、局ホームページへ掲載するなどにより名称のPRに努めました。

また、のぼり旗(支柱は若齢の人工



写真2

PR用に作成したのぼり旗



資料2 産地表示用の紙(例)



写真3

産地を表示した紙を貼った丸太

林ヒノキを円柱加工したものを作成し、「高国木曾ひのき」が搬入された各市場において、この旗を立てるとも

### 取組結果

初出品した際には、写真入りのPR用チラシを作成するなどの取組を行いました(資料3)。



資料3

PR用初出品チラシ

に(写真2)、丸太に産地を表示した紙を貼りました(資料2、写真3)。更に、極印を押印した材を

「高国木曾ひのき」として販売した丸太は、10月末現在で約9,100m<sup>3</sup>で、その内、特に品質の優れたものとして、極印を押印した材は91本、約46m<sup>3</sup>でした。これらの丸太は、品質の確かなものとして、市場でも高く評価されました。

また、これらの取組が評価され、国産材をブランド化する事例として中学生向けの地理の資料集の「日本の林業・水産業」のページに掲載されました(東京法令出版『グラフィックワイド地理世界・日本』(資料4))。中部森林管理局では、「高国木曾ひのき」が定着するよう、引き続きブラ

ンドのPRに努めるとともに、一般の消費者に品質の高い材として広く認知され、地域の木材産業の発展にも貢献できるよう取り組みたいと考えています。

### TOPIC 国産材をブランド化 「高国木曾ひのき」



▲2 初出品された「高国木曾ひのき」

資料4

林野庁中部森林管理局(長野県長野市)は、2013年度から、木曾地方の国有林から伐採される、林齢80年以上の良質な人工林ひのきを「高国(マルコウ マルコク)木曾ひのき」と称して販売する。「高」は高齢級、「国」は国有林の頭文字から取っている。厳しい自然条件で成育している高齢級ひのきは、年輪が緻密で狂いが少なく、光沢があり、耐久性も高いのが特長である。

木曾地方には約9万ヘクタールの国有林があり、うち45%を人工林が占めている。高齢化した良質なひのきが増えたことからブランド化が考えられたが、地域振興につながることも期待されている。

資料集に掲載された記事